

電話／テレビ電話

電話／テレビ電話のかけかた

テレビ電話.....	60
電話／テレビ電話をかける.....	60
電話／テレビ電話を切り替える... <テレビ電話切替／音声電話切替>63	
リダイヤル／着信履歴を利用する.....<リダイヤル／着信履歴>63	
着もしを使う.....<着もし>66	
1回の通話ごとに発信者番号を通知／非通知にする	
.....<番号通知／非通知>67	
プッシュホン信号を送る.....<ボーズダイヤル>67	
国際電話を利用する.....<WORLD CALL>68	
国際電話の設定をする.....<国際ダイヤルアシスト設定>69	
電話番号の先頭に付加する番号を設定する..... <プレフィックス設定>70	
サブアドレスを指定して電話をかける.....<サブアドレス設定>70	
再接続するときのアラーム音を設定する.....<再接続機能>70	
周囲の騒音を抑えて通話を明瞭にする.....<ノイズキャンセラ>71	
車の中で手を使わずに話す.....<車載ハンズフリー>71	

電話／テレビ電話の受けかた

電話／テレビ電話を受ける.....	71
電話／テレビ電話を切り替える.....	72
ダイヤルボタンを押して電話に出る.....<エニーキーアンサー>73	
FOMA端末を閉じて通話を終了／保留する..... <クローズ動作設定>73	
相手の声の音量を調節する.....<受話音量調節>73	

電話／テレビ電話に出られないとき／出られなかったとき

すぐに電話に出られないときに保留にする..... <応答保留>73	
応答保留音／通話保留音を設定する..... <応答保留音／保留音>74	
公共モードを利用する.....	74
不在着信を確認する.....<不在着信>75	
電話に出られないときに用件を録音／録画する	
.....<伝言メモ／テレビ電話伝言メモ>76	
着信中の電話に出られないときに用件を録音／録画する	
.....<クイック伝言メモ>78	
伝言メモ・音声メモを再生／削除する	
.....<伝言メモ・音声メモ再生／削除>78	

テレビ電話の設定

キャラ電を利用する.....	78
送信する映像について設定する.....	79
テレビ電話のハンズフリーについて設定する	
.....<テレビ電話ハンズフリー設定>81	
テレビ電話中の映像を設定する.....	81
テレビ電話の設定を変更する.....	82
電話とテレビ電話の切り替えについて設定する	
.....<テレビ電話切替機能通知>82	
i モード中にテレビ電話がかかってきたときの応答方法を設定する	
.....<パケット通信中着信設定>82	

テレビ電話

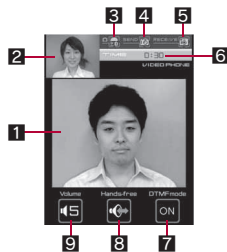
画面に映ったお互いの映像を見ながら通話することができます。

- テレビ電話は64K(kbps)で通信できます。
- 相手がテレビ電話に出ると、[テレビ電話接続] を押すとハンズフリーへの切替・解除ができます]と表示されます。この時点からデジタル通信料がかかりますので、ご注意ください。
- 緊急通報番号(110番、119番、118番)へテレビ電話をかけることはできません。
- テレビ電話通信機能は、ドコモのテレビ電話に対応した端末どうしで利用できます。
- テレビ電話中は、お互いの映像を見ながら通話できるように、別売りのイヤホンマイク(P.423)を利用するか、ハンズフリーを利用してください。
- ドコモのテレビ電話は、「国際基準の3GPP※¹」で標準化された、3G-324M※²」に準拠しています。異なる方式を利用しているテレビ電話とは接続できません。

※¹ 3GPP(3rd Generation Partnership Project):第3世代移動通信システム(3GPP-TS22.061)に関する共通技術仕様開発のために設置された地域標準化団体です。

※² 3G-324M:第3世代携帯テレビ電話の国際規格です。

テレビ電話中の画面の見かた



- 画面はイメージで、実際と同じ画面は表示されません。

- 1 親画面:相手側の映像(お買い上げ時)
- 2 子画面:自分側の映像(お買い上げ時)
- 3 自分側のカメラ映像の明るさ



4 送信画像マーク

	カメラ映像を送信中
	カメラ映像の一時停止中
	キャラ電(全体アクションモード)を送信中
	キャラ電(パーツアクションモード)を送信中
	代替画像として静止画を送信中
	データBOXのマイピクチャの静止画を送信中

5 受信画像マーク

	相手側の画像を撮影、保存するときに表示
--	---------------------

6 通話時間

- 表示される通話時間は目安です。通話時間は9時間59分59秒まで表示され、これを超えると0分00秒に戻ります。

7 DTMF送信モードマーク

	ON		OFF
--	----	--	-----

8 ハンズフリーマーク

	ハンズフリー通話中
	USBハンズフリー通話中

9 受話音量マーク

	(音量1) ~ (音量10)
--	-----------------

- テレビ電話中のディスプレイの明るさは、照明・省電力設定のオリジナルEcoモードの設定に従います。

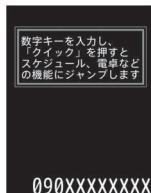
電話／テレビ電話をかける

- 電波が強くが表示されていて移動せずに通話をしているときでも、通話が切れることがあります。
- マルチナンバーを選んでかけるとき P.455

- 2in1利用時に発信番号を選んでかけるとき P.456

1 待受画面で電話番号を入力

- 同一市内でも、必ず市外局番から入力してください。
- 80桁まで入力できます。
- 最後の1桁を消去:  (1秒以上)
- すべての桁を消去:  (1秒以上)



2 (音声電話) / (テレビ電話)

- 携帯電話は一般の電話と違い、「ルルル……」という呼出音の前に「ブップブップ」という発信音が入ります。
- 相手が話しているときは、「ツーツー」という話中音が聞こえます。電話を切り、しばらくたってからかけ直してください。

音声電話中のボタン操作

- ハンズフリーの設定／解除:  (1秒以上)

テレビ電話中のボタン操作

- ハンズフリーの設定／解除: 
- 代替画像／自画像の切替: 

3 通話が終わったら

- 2in1のモードが[デュアルモード]のときは、操作2のあとに発信番号選択画面が表示されます。発信番号を選択してください。

音声電話のとき

- 操作1と2の手順を逆にしても電話をかけることができます。このとき、電話番号を入力してから約5秒間何も操作しないと発信します。

テレビ電話のとき

- テレビ電話に対応していない端末にテレビ電話をかけるときは接続できません。また、ネットワーク状況によって64Kが利用できない機器と接続するときも接続できません。
- キャッチホンをご契約いただいている場合、テレビ電話中に音声電話やテレビ電話がかかってくると、着信履歴に記憶され、ストックアイコン  (着信あり) が表示されます。

- 音声や映像の送受信に失敗したとき、自動的に復旧はしません。もう一度テレビ電話をかけ直してください。

テレビ電話がつながらなかったとき

- テレビ電話がつながらなかったときは、接続できなかった理由をメッセージで表示します。なお、相手のFOMA端末の種類やネットワークサービスのご契約の有無により、実際の相手の状況とは異なる場合があります。
 - [番号をご確認の上、おかけ直してください]: 使われていない電話番号にかけたときに表示されます。
 - [お話中です]: 相手が通話中に表示されます(相手の端末によっては、パケット通信のときにも表示されることがあります)。
 - [転送致しますのでお待ちください]: 相手が転送設定しているときに表示されます。
 - [電波の届かない所にいるか、電源が切れています]: 相手が圏外にいるか、または電源を入れていません。
 - [発信者番号通知をONにしてください]: 発信者番号非通知で接続したときに表示されます(ビジュアルネットなどの発信時)。
 - [音声電話でおかけ直してください]: 転送でんわサービスを設定して転送先がテレビ電話非対応端末のときに表示されます。
 - [パケット通信中です]: 相手がパケット通信中に表示されます。
 - [上限額を超過しているため接続出来ません]: リミット機能付プラン(タイプライミット、ファミリーワイドリミット)の上限額を超過しているときに表示されます。
 - [i モードから接続してください]: i モードに接続してからアクセスする必要があるVライブに、直接テレビ電話発信したときに表示されます。コンテンツ提供者が公開しているサイトに接続し、リンクからテレビ電話発信して視聴してください。
 - [接続できませんでした]: いずれの理由にも該当しないときに表示されます。

ハンズフリーについて

- ハンズフリー利用時の注意事項については P.81
- 発信中、呼出中も操作できます。着信中は操作できません。
- 通話を終了するとハンズフリーは解除されます。

フェムトセル利用時の表示について

- フェムトセル利用中は、その旨が表示されます。
 - 音声電話／テレビ電話の発信中: [フェムトセル発信中]
 - 音声電話／テレビ電話の呼出中: [フェムトセル呼出中]
 - 音声電話の通話中: [フェムトセル通話中]

■ 電話番号入力画面のサブメニュー操作

[電話帳登録] ▶ 電話帳に登録	
[番号通知設定]	☎ P.67
[番号付加設定]	
▶ [プレフィックス選択]	☎ P.70
▶ [国際電話発信]	☎ P.69
[マルチナンバー 選択]	☎ P.455
[2in1選択]	☎ P.456
[テレビ電話画像設定]	☎ P.80
[着もじ]	☎ P.66

■ 音声電話中画面のサブメニュー操作

[通話保留]	☎ P.63
[切替] (キャッチホンでの通話中のみ)	
● 通話相手を切り替えます。	
[保留呼切断] (キャッチホンでの通話中のみ)	
● 保留中の電話を切ります。	
[通話中音声メモ]	☎ P.420
[電話帳登録] ▶ 電話帳に登録	
[自局番号表示]	
[テレビ電話切替]	☎ P.63
[Bluetooth－本体切替]	
● Bluetooth機器を利用した通話の詳細については☎ P.430	

■ テレビ電話中画面のサブメニュー操作

- 次の機能については、音声電話中画面のサブメニュー操作 (☎ P.62) を参照してください。

■ 通話保留 ■ 自局番号表示 ■ Bluetooth－本体切替

[受話音量] ▶ ④で音量を調節	
● 受話音量調節の詳細については☎ P.73	

[送信画像切替]	
▶ [自画像]	☎ P.79
▶ [代替画像]	☎ P.79
▶ [キャラ電]	☎ P.79
▶ [ファイル再生]	☎ P.79
▶ [自画像設定]	
▶ [一時停止]	☎ P.79
▶ [正像／鏡像切替]	☎ P.82
[静止画メモ] ▶ ●	
● 相手側の画像を静止画撮影します。	
[テレビ電話設定]	
▶ [テレビ電話画面設定]	☎ P.81
▶ [子画面表示設定]	☎ P.81
▶ [送信画質設定]	☎ P.80
▶ [テレビ電話中照明]	☎ P.81
[音声電話切替]	☎ P.63
[DTMF送信モード] ▶ 設定を選ぶ ▶ ●	
[カメラ切替]	☎ P.80
[キャラ電設定]	
▶ [キャラ電切替]	☎ P.78
▶ [アクション切替]	☎ P.79
▶ [アクション一覧]	☎ P.79

[静止画メモ]について

- テレビ電話画面設定を「[自分のみ]」に設定しているときは、操作できません。
- 撮影サイズは「QCIF: 176×144」です。
- 撮影した静止画はデータBOXのマイピクチャの「カメラ」フォルダに保存されます。
- 撮影した静止画はFOMA端末外へ出力できません。

- シャッター音は鳴りません。
- 静止画撮影中、相手には自分側の映像に[撮影中]という文字が重なって表示されます。

[送信画質設定]について

- テレビ電話中に設定したときは、その通話に限り有効です。

通話中に保留する<通話保留>

1 通話中に [保留] [通話保留]

- テレビ電話中は [保留] を押しても通話保留できます。

2 通話を再開するときは、[再開]

- 音声電話中は [再開] を押しても再開できます。
- テレビ電話中は [再開] を押すと代替画像で再開できます。

- 相手には保留音が流れ、電話はつながった状態のまま保留されます。テレビ電話のとき、相手には保留画像設定で設定した画像が送信され、[保留]という文字が重なって表示されます。
- 保留中にFOMA端末を閉じて、保留状態は続きます。クローズ動作設定とは運動していません。

テレビ電話切替／音声電話切替

電話／テレビ電話を切り替える

自分から電話をかけたときに、音声電話⇄テレビ電話を切り替えることができます。

- 相手のFOMA端末のテレビ電話切替機能通知(PP.82)が「開始」に設定されている必要があります。
- 電話を受けたときは切り替えることができません。相手から切り替えてもらってください。

1 通話中に [切替] [テレビ電話切替]／[音声電話切替] ▶ [はい]

- [切替]を押しても切り替えることができます。
- 切り替えには、約5秒かかります。電波状況によっては、切り替えに時間がかかることがあります。切り替え中は、「しばらくお待ちください」と表示され、音声ガイダンスが流れます。



音声電話からテレビ電話へ切り替えるとき

- ワンセグ起動中は切り替えることができません。
- 音声電話⇄テレビ電話を切り替えると、通話時間表示は0秒から開始されます。
- 電波状況によっては、音声電話からテレビ電話またはテレビ電話から音声電話に切り替わず、接続が切れるときがあります。
- 切り替え中は、通話時間に含まれず、料金は加算されません。

音声電話からテレビ電話へ切り替えるとき

- 相手が映像を表示しないように選択したとき、相手側のカメラ映像は表示されません。
- バケット通信中のときは、バケット通信を切断してテレビ電話に切り替えます。
- 切り替え前の通話状態にかかわらず、テレビ電話に切り替えるとハンズフリー通話になります。
- キャッチホンでの通話中に、音声電話からテレビ電話に切り替えることはできません。

テレビ電話から音声電話へ切り替えるとき

- ハンズフリーは解除されます。

リダイヤル／着信履歴

リダイヤル／着信履歴を利用する

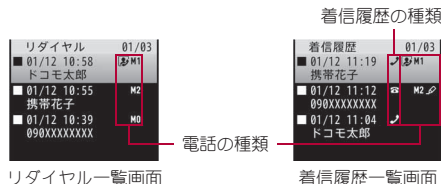
最新の履歴からそれぞれ30件までFOMA端末に記憶されます。

- 同じ電話番号に複数回かけたときは最新の1件だけがリダイヤルに記憶されます。ただし、「186」や「184」を付けて電話をかけたときは、別のリダイヤルとして記憶されます。

- 2in1利用時は、AナンバーとBナンバーのリダイヤル／着信履歴がそれぞれ30件まで記憶されます。
- 電話帳に登録しているときは、名前が表示されます。

1 待受画面で㊟(㊞) (リダイヤル)／㊟(㊞) (着信履歴)

- カスタムメニューでは：[電話] ▶ [リダイヤル]／[着信履歴]
- 詳細画面の表示：電話番号を選ぶ ▶ ㊟
- リダイヤル／着信履歴一覧画面の切替：㊟
- 次ページ／前ページの切替：㊟
- ビューアポジションのときは、待受画面で右にすばやくスライド(リダイヤル)／左にすばやくスライド(着信履歴)すると起動でき、タッチパネルで操作できます。



電話の種類

表示なし	音声電話
📞	テレビ電話
📶	64Kデータ通信(着信履歴のみ)
🌐	国際電話
M0～M2	マルチナンバー発着信(マルチナンバー設定時のみ)
B	Bナンバー発着信(2in1[デュアルモード]時のみ)
📞	着もし(着信履歴のみ)
📶	フェムトセル発信

着信履歴の種類

📞	電話に出たものや、応答保留したもの
---	-------------------

📞	伝言メモで用件を録音／録画したもの
📞	電話に応答しなかったもの、転送先や留守番電話サービスセンターに転送したもの、電話帳指定着信許可(📞P.126)、電話帳指定着信拒否(📞P.126)、電話帳登録外着信拒否(📞P.128)、非通知理由別着信拒否(📞P.127)、公共モード(ドライブモード)(📞P.74)の設定により着信が拒否されたもの

2 電話番号を選んで電話をかける

- 音声電話：㊟
- テレビ電話：㊟ ▶ ㊟

- 通話中に音声電話⇄テレビ電話を切り替えても、電話の種類には発信時／応答時の種類が表示されます。
- ダイヤルラインをご利用の相手からの着信のとき、相手のダイヤルライン番号とは異なる番号が表示されることがあります。
- 着もしを受信した着信履歴から発信しても、受信した着もしは送信されません。
- 電話帳に同じ電話番号が重複して登録されているときは、メモリ番号の小さい方の名前が表示されます。
- 電話帳にピクチャーコールを設定しているときは、リダイヤル／着信履歴詳細画面にも画像が表示されます。ただし、文字サイズ設定の一括設定を[標準]以外に設定している場合は、表示されません。
- 文字サイズ設定の一括設定を[標準]以外に設定している場合、リダイヤル／着信履歴詳細画面で電話番号や電話帳に登録されている名前がすべて表示されていないことがあります。この場合㊟を押して表示を切り替えてください。

■ リダイヤル一覧画面のサブメニュー操作

[電話帳登録] ▶ 電話帳に登録

[削除]

▶ [1件削除] ▶ [はい]

▶ [全件削除] ▶ 端末暗証番号を入力 ▶ ㊟ ▶ [はい]

[メール作成] ▶ メールを作成・送信

[スケジュール作成] ▶ スケジュールを登録

[居場所を確認] ▶ [はい]

[削除]について

- リダイヤルを全件削除すると、着もじの送信メッセージ履歴も削除されます。
- リダイヤルを全件削除すると、AナンバーとBナンバーのすべてのリダイヤルが削除されます。

[スケジュール作成]について

- 表示されるスケジュールの予定登録画面には、あらかじめ次の内容が登録されます。
 - 日時：発信／着信日時
 - 連絡先：電話番号

[居場所を確認]について

- イマドコかんたんサーチのiモードサイトに接続します。
- ご利用には別途検索料(検索成功時のみ)とパケット通信料がかかります。

■ 着信履歴一覧画面のサブメニュー操作

- 次の機能については、リダイヤル一覧画面のサブメニュー操作(☞P.64)を参照してください。
 - 電話帳登録
 - 削除
 - メール作成
 - スケジュール作成
 - 居場所を確認

[全表示]／[限定表示]

- 着信履歴の全表示／限定表示を切り替えます。

[削除]について

- 着信履歴を全件削除すると、AナンバーとBナンバーのすべての着信履歴が削除されます。

[全表示]、[限定表示]について

- 呼出動作開始時間設定が[ON]で、不在着信履歴表示が[OFF]に設定されている場合に、電話帳に登録されていない相手から電話がかかってきたとき、次の着信は、着信履歴には表示されません。
 - 呼出動作開始時間内に電話が切断された着信
 - 電波の状況が悪いために切断された着信
 ただし、[全表示]を選択すると表示させることができます。

■ リダイヤル詳細画面のサブメニュー操作

- 次の機能については、リダイヤル一覧画面のサブメニュー操作(☞P.64)を参照してください。

- 電話帳登録
- メール作成
- スケジュール作成
- 居場所を確認

[1件削除] ▶ [はい]

[番号通知設定] ☞P.67

[番号付加設定]

▶ [プレフィックス選択] ☞P.70

▶ [国際電話発信] ☞P.69

[マルチナンバー選択] ☞P.455

[2in1選択] ☞P.456

[テレビ電話画像設定] ☞P.80

[着もじ] ☞P.66

■ 着信履歴詳細画面のサブメニュー操作

- 次の機能については、リダイヤル一覧画面のサブメニュー操作(☞P.64)を参照してください。

- 電話帳登録
- メール作成
- スケジュール作成
- 居場所を確認

- 次の機能については、リダイヤル詳細画面のサブメニュー操作(☞P.65)を参照してください。

- 1件削除
- 番号通知設定
- 番号付加設定
- マルチナンバー選択
- 2in1選択
- テレビ電話画像設定
- 着もじ

[呼出時間表示]

[全表示]／[限定表示]

- [全表示]、[限定表示]について☞P.65

[呼出時間表示]について

- 着信履歴の種類のマークが[✓]のものは呼出時間を確認できません。

- 電話帳指定着信許可、電話帳指定着信拒否、電話帳登録外着信拒否、非通知理由別着信拒否、公共モード(ドライブモード)の設定により着信が拒否された場合は[0:00]と表示されます。

着もじ

着もじを使う

音声電話やテレビ電話をかけるときに同時にメッセージ(着もじ)を送信して、呼び出し中の相手のFOMA端末に表示し、あらかじめ用件を伝えることができます。

- 全角・半角・絵文字・記号問わず10文字まで送信できます。
- 送信側は料金がかかります。受信側は料金がかかりません。
- 着もじの詳細や対応機種については、ドコモのホームページまたは『ご利用ガイドブック(ネットワークサービス編)』をご覧ください。
- オールロック中や着もじの機能別ロック中は、着もじを受信しても表示されません。ロックを解除すると、着信履歴詳細画面でメッセージを確認することができます。
- 着もじが表示されるのは着信中(発信中)のみです。通話を開始したら着もじは消えます。

例: 音声電話で着もじを受信したとき



メッセージの編集や設定をする

■ メッセージを登録する<メッセージ作成>

- メッセージは10件まで登録できます。

1 カスタムメニューで[設定] ▶ [その他のNWサービス] ▶ [着もじ] ▶ [メッセージ作成]

2 番号を選ぶ ▶

- 登録しているメッセージの確認: 番号を選ぶ ▶

3 メッセージを入力 ▶

■ メッセージを表示するかどうかを設定する <メッセージ表示設定>

1 カスタムメニューで[設定] ▶ [その他のNWサービス] ▶ [着もじ] ▶ [メッセージ表示設定]

2 表示方法を選ぶ ▶

メッセージを付けて電話をかける<着もじ>

1 待受画面で電話番号を入力 ▶ ▶ [着もじ]

- 電話番号を入力してを押しても操作できます。
- 電話帳やリダイヤル、着信履歴の詳細画面では:

2 メッセージを選ぶ

- ◆ [メッセージ作成] ▶ メッセージを入力 ▶
- ◆ [メッセージ選択] ▶ メッセージを選ぶ ▶
- ◆ [送信メッセージ履歴] ▶ メッセージを選ぶ ▶

3 (音声電話) / (テレビ電話)



- 着もじが相手に届くと[送信しました]と表示され、送信料金がかかります。

- 送信メッセージ履歴は、最後に送信したのから10件まで記憶されます。2in1利用時は、AナンバーとBナンバーの送信メッセージ履歴がそれぞれ10件まで記憶されます。
- 音声自動再発信時には、テレビ電話発信時の着もじが自動で送信されます。
- 次の状態のときも、送信料金はかかりません。
 - 電波状態によって、相手側の端末に着もじが届いていても送信側に送信結果が表示されないとき
 - 呼出動作開始時間設定で設定した時間より呼出時間が短いとき
- 着信側が次の状態の場合、着もじを付けて発信しても着もじは表示されず、送信料金はかかりません。
 - 相手が対応端末でないとき
 - メッセージ表示設定で許可している着信以外の着信のとき
 さらに、着信側が次の設定・状態の場合、送信側の画面には送信結果も表示されません(着信側の着信履歴に、着もじは保存されません)。
 - 圏外のとときや電源が入っていないとき
 - 公共モード(ドライブモード)を設定しているとき
 - 伝言メモの応答時間を「0秒」に設定しているとき
- 海外での利用時には着もじを送受信することはできません。

■ 送信メッセージ履歴画面のサブメニュー操作

[1件削除] ▶ [はい]

[全件削除] ▶ 端末暗証番号を入力 ▶ ▶ [はい]

番号通知／非通知

1 回の通話ごとに発信者番号を通知／非通知にする

- あらかじめ設定する方法(☞P.57)より、電話発信するときの指定が優先されます。

電話をかけるときに通知／非通知を指定する

<番号通知設定>

- 1 待受画面で電話番号を入力 ▶ ▶ [番号通知設定]

2 設定を選ぶ

- 通知する:[番号通知]
- 通知しない:[番号非通知]
- ネットワークサービスの発信者番号通知設定(☞P.57)に従う:[NW設定に従う]

3 (音声電話) / (テレビ電話)

相手の電話番号の前に「186」／「184」を付けてダイヤルする

■ 「186」を付けてダイヤルする(番号通知)

- 1 待受画面で ▶ 相手先電話番号を入力

2 (音声電話) / (テレビ電話)

■ 「184」を付けてダイヤルする(番号非通知)

- 1 待受画面で ▶ 相手先電話番号を入力

2 (音声電話) / (テレビ電話)

ボーズダイヤル

プッシュホン信号を送る

チケットの予約や銀行の残高照会サービスの電話番号と送信するメッセージ(番号)などの組み合わせを電話帳に登録しておくと、簡単な操作で送信できます。

- 通話中にダイヤルボタンを押すと、押したボタンの番号がプッシュホン信号として1つずつ送信できます。
 - ・ キャラ電を送信中のときはDTMF送信モードを[ON]に切り替えて送信する番号を入力してください(☞P.62)。

電話帳にプッシュホン信号を登録する

- 1 電話帳に電話番号を入力 ▶

- を押すとボーズ「P」が入力されます。また、TOUCH CRUISER(タッチクルーザー)で指を上をスライドさせても入力できます。

2 送信する番号を入力▶

- 番号を入力したあと、を押すと続けて番号を入力できます。

3 電話帳を登録

プッシュホン信号を利用してメッセージを送る

- ポーズダイヤルは音声電話のみに対応しています。

1 プッシュホン信号を登録した電話帳から音声電話をかける

- 登録した「P」以降の番号が表示されます。

2 タイミングを合わせて

- 「P」以降の番号がプッシュホン信号で送信されます。
- 「P」で区切った複数の番号を登録しているときは、を押すたびに送信されます。
- 受信側の機器によっては、信号を受信できないときがあります。

WORLD CALL

国際電話を利用する

WORLD CALLは、ドコモの携帯電話からご利用いただける国際電話サービスです。

FOMAサービスをご契約のお客様は、ご契約時にあわせて「WORLD CALL」もご契約いただいています(ただし、不要のお申し出をされた方を除きます)。

[通話方法] 010▶国番号▶地域番号(市外局番)▶相手先電話番号▶

- 009130▶010▶国番号▶地域番号(市外局番)▶相手先電話番号▶
- でもかけられます。

- 上記の操作方法を、FOMA端末の電話帳に登録できます。
- 地域番号(市外局番)が「0」で始まる場合は、「0」を除いて入力してください(イタリアなど一部の国・地域では、「0」が必要な場合があります)。

- 通話先は世界約240の国と地域です。

- 「WORLD CALL」の料金は毎月の携帯電話の通話料金と合わせてご請求いたします。
- 申込手数料・月額使用料は無料です。
- WORLD CALLをご利用されたときは、直前の通話時間の概算がFOMA端末の画面で確認できます(P.420)。
- WORLD CALLについては、取扱説明書裏面の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせください。
- ドコモ以外の国際電話サービス会社をご利用になるときは、各国際電話サービス会社に直接、お問い合わせください。
- 一部ご利用できない料金プランがあります。

海外の特定3G通信事業者をご利用のお客様、またはFOMA端末をご利用のお客様と国際テレビ電話がご利用いただけます。

- 接続可能な国および通信事業者などの情報については、『ご利用ガイドブック(国際サービス編)』またはドコモの「国際サービスホームページ」をご覧ください。
- 国際テレビ電話の接続先の端末により、FOMA端末に表示される相手側の画像が乱れたり、接続できない場合があります。

■「+」を入力して国際電話をかける

日本から国際電話をかけるときに、電話番号の先頭に「+」を入力すると、自動的に国際電話アクセス番号に変換して発信できます。

- を1秒以上押すと「+」を入力できます。

1 待受画面で (1秒以上)▶国番号、地域番号(市外局番)、相手先電話番号を入力▶

- 「+」を国際電話アクセス番号に変換して付加した番号が表示されます。

2 [発信]

- [元の番号で発信]を選択した場合は、国際電話アクセス番号に変換せず、入力した番号のままでも国際電話をかけることができます。

■ 国際電話アクセス番号を選んで国際電話をかける

<国際電話発信>

国番号、地域番号(市外局番)、相手先電話番号のみを入力し、国際プレフィックス設定で設定した国際電話アクセス番号を選んで国際電話をかけることができます。

1 待受画面で国番号、地域番号(市外局番)、相手先電話番号を入力▶

2 [番号付加設定]▶[国際電話発信]

3 国際電話アクセス番号を選ぶ▶▶

- 通信事業者によっては、発信者番号通知設定(☎P.57)を「通知」に設定していても、発信者番号が通知されなかったり、正しく番号表示されないことがあります。この場合、着信履歴から電話をかけることはできません。

国際ダイヤルアシスト設定

国際電話の設定をする

国際電話アクセス番号／国番号の自動付加を設定する<自動変換機能設定>

「+」を入力して、自動的に国際電話アクセス番号に変換するかを設定します。また、海外で電話をかけるときに、電話番号の先頭の「0」を自動的に国番号に変換して発信するかを設定します。

1 カスタムメニューで[設定]▶[通話・通信機能設定]▶[その他の設定]▶[国際ダイヤルアシスト設定]▶[自動変換機能設定]

2 [自動国際プレフィックス変換]欄を選ぶ▶▶[ON]

- 自動付加する国際電話アクセス番号は、国際プレフィックス設定で設定できます。

3 [自動国番号変換設定]欄を選ぶ▶▶[ON]▶自動付加する国番号を選ぶ▶

- 国番号設定に登録されている国番号から選択できます。

4

WORLD CALL以外の番号を設定する

<国際プレフィックス設定>

- 日本から国際電話をかけるときに利用する国際電話アクセス番号は、10件まで登録できます。

1 カスタムメニューで[設定]▶[通話・通信機能設定]▶[その他の設定]▶[国際ダイヤルアシスト設定]▶[国際プレフィックス設定]

2 新規に登録する番号を選ぶ▶

- 登録済みの番号を変更:番号を選ぶ▶▶[変更]
- 登録済みの番号を削除:番号を選ぶ▶▶[削除]▶[はい]
- 登録した番号を自動付加対象に設定／解除:番号を選ぶ▶▶[自動付加／解除]
- 自動付加対象に設定した場合、名称の右にが表示されます。

3 名称を入力▶

- 全角7文字(半角14文字)まで入力できます。

4 付加番号を入力▶

- を1秒以上押すと「+」を入力できます。
- 16桁まで入力できます。

国番号を設定する<国番号設定>

- 海外から国際電話をかけるときに利用する国番号は30件まで登録できます。
- 国番号設定に登録している国に電話をかける方法については☎P.466

1 カスタムメニューで[設定]▶[通話・通信機能設定]▶[その他の設定]▶[国際ダイヤルアシスト設定]▶[国番号設定]

2 新規に登録する番号を選ぶ ▶ ◎

- 登録済みの国番号を変更: 番号を選ぶ ▶ ◎ ▶ [編集]
- 登録済みの国番号を削除: 番号を選ぶ ▶ ◎ ▶ [削除] ▶ [はい]

3 [国名]欄を選ぶ ▶ ◎ ▶ 国名を入力 ▶ ◎

- 全角7文字(半角14文字)まで入力できます。

4 [国番号]欄を選ぶ ▶ ◎ ▶ 国番号を入力 ▶ ◎

- 「+」を除いて5桁まで入力できます。

5

プレフィックス設定

電話番号の先頭に付加する番号を設定する

- 国際電話アクセス番号など、電話番号の先頭に付けるプレフィックス番号は、5件まで登録できます。電話帳、リダイヤル、着信履歴からの発信時にも付加できます。

1 カスタムメニューで[設定] ▶ [通話・通信機能設定] ▶ [その他の設定] ▶ [プレフィックス設定]

2 新規に登録する番号を選ぶ ▶ ◎

- 登録済みの番号を変更: 番号を選ぶ ▶ ◎ ▶ [変更]
- 登録済みの番号を削除: 番号を選ぶ ▶ ◎ ▶ [削除] ▶ [はい]

3 プレフィックス番号を入力 ▶ ◎

- を1秒以上押すと「+」を入力できます。
- 16桁まで入力できます。

プレフィックス番号を付けて電話をかける

<プレフィックス選択>

1 待受画面で電話番号を入力 ▶

2 [番号付加設定] ▶ [プレフィックス選択]

3 プレフィックス番号を選ぶ ▶ ◎ ▶

- 通信事業者によっては、発信者番号通知設定(※P.57)を「通知」に設定していても、発信者番号が通知されなかったり、正しく番号表示されないことがあります。この場合、着信履歴から電話をかけることはできません。

サブアドレス設定

サブアドレスを指定して電話をかける

サブアドレスを使用すると、ISDN端末に電話をかけるときに、特定の端末を呼び出すことができます。

- サブアドレスとは、1つのISDN回線に接続された複数のISDN端末を呼び分けるために付けられた番号です。Vラインでコンテンツを選ぶときにも利用します。

1 カスタムメニューで[設定] ▶ [通話・通信機能設定] ▶ [その他の設定] ▶ [サブアドレス設定] ▶ [ON]

■ サブアドレスを指定して電話をかける

- 電話番号とサブアドレスは相手にお問い合わせください。

1 待受画面で電話番号、、サブアドレスの順に入力 ▶

- 電話番号の先頭に「*」を入力したり、「186」、「184」、プレフィックス設定で付加された番号のあとに「*」を入力すると、「*」以降は電話番号とみなされます。

再接続機能

再接続するときのアラーム音を設定する

電波の状態などで通信が途切れた通話を自動的に再接続するときのアラーム音を設定します。

- 電波の状態により再接続可能な時間は異なります。目安は約10秒間です。
- 再接続されるまでの間(最長約10秒間)、相手は無音状態になります。また、この間も通話料金ががかかります。

1 カスタムメニューで[設定] ▶ [通話・通信機能設定] ▶ [通話中設定] ▶ [再接続機能]

2 アラーム音を選ぶ ▶ ◎

ノイズキャンセラ

周囲の騒音を抑えて通話を明瞭にする

- 通常は、[ON] での使用をおすすめします。

1 カスタムメニューで[設定] ▶ [通話・通信機能設定] ▶ [通話中設定] ▶ [ノイズキャンセラ] ▶ [ON]

- ノイズキャンセラでは、通話を明瞭にするために音声の加工処理をしています。周囲のノイズ状態や、話しかたにより、音声の聞こえかたが変わることがあります。

車載ハンズフリー

車の中で手を使わずに話す

FOMA端末を車載ハンズフリーキット 01(別売)やカーナビなどのハンズフリー対応機器と接続することにより、ハンズフリー対応機器から音声電話の発信などの操作ができます。

- Bluetooth接続(ワイヤレス)でも利用できます(☞P.430)。
- ハンズフリー対応機器の操作については、各ハンズフリー対応機器の取扱説明書をご覧ください。
- 車載ハンズフリーキット 01は、FOMA車載ハンズフリー接続ケーブル 01(別売)で接続するか、Bluetooth接続(ワイヤレス)で接続してご利用ください。
- 着信時の画面表示や着信音などの動作、公共モード(ドライブモード)設定中の着信動作は、FOMA端末の設定に従います。
- ハンズフリー対応機器から音を鳴らすように設定している場合、FOMA端末でマナーモード設定中や着信音量を[サイレント]に設定しているも、電話の着信時にハンズフリー対応機器から着信音が鳴ります。
- FOMA端末から音を鳴らすように設定している場合、通話中にFOMA端末を閉じたときはクローズ動作設定に従います。ハンズフリー対応機器から音を鳴らすように設定しているときは、クローズ動作設定にかかわらずFOMA端末を閉じても通話は継続されます。
- 伝言メモ設定中は、ハンズフリー対応機器と接続中でも伝言メモの設定に従います。

- ハンズフリー対応機器の特性や仕様によっては、FOMA端末の一部の通話操作ができないことがあります。

電話／テレビ電話を受ける

着信は、着信音、着信ランプ、バイブレータなどで確認できます。

1 電話がかかってくると、着信音が鳴り、着信ランプが点滅する

- 着信中は[着信中]／[テレビ電話着信中]と表示されます。
- 発信者番号が通知されたときは、電話番号を表示します。電話帳に登録されている電話番号からの着信のときは、名前もあわせて表示します。電話帳にビクチャコールを設定しているときは、設定された画像も表示されます。
- 発信者番号が通知されないときは、非通知理由が表示されます。
 - ・ [非通知設定]: 発信者の意思により発信者番号を通知しないで発信したとき
 - ・ [公衆電話]: 公衆電話などから発信したとき
 - ・ [通知不可能]: 海外からの着信や一般電話から各種転送サービスを経由しての着信など、発信者番号を通知できない相手から発信したとき(ただし、経由する電話会社などにより発信者番号が通知されることもあります)

着信中の操作

- 着信音量の変更:  / 
- 応答保留(☞P.73)
- クイック伝言メモ(☞P.78)
- クイックサイレント(☞P.99)
- マナーモードの設定／解除(☞P.99)

2

- 音声電話のときはエニーキーアンサーで電話を受けることができます(☞P.73)。
- 代替画像で応答(テレビ電話): 

3 通話が終わったら

- テレビ電話の場合、相手側から映像が送信されてこないときには黒い画面が表示されます。
- マルチナンパー利用中、登録しているマルチナンパーに着信があると、[着信中]／[テレビ電話着信中]の右にマルチナンパーの名称が表示されます。

- 着信音量の変更は、その着信に限り有効です。

通話中に「ブブ…ブブ…」という通話中着信音が聞こえたとき

- 留守番電話サービス、キャッチホン、転送でんわサービスのいずれかをご契約いただいているとき、通話中着信設定を「開始」に設定し、通話中着信動作選択を「通常着信」に設定すると、通話中に別の電話がかかってきたときに「ブブ…ブブ…」という通話中着信音が聞こえ、次のサービスを利用できます（音声電話中に別のテレビ電話を着信したとき、またはテレビ電話中に別の電話を着信したときは、お知らせ画面が表示され、利用するサービスを選択できます。キャッチホンは利用できません）。

- 留守番電話サービス（P.448）
- キャッチホン（P.449）
- 転送でんわサービス（P.450）

■ 音声電話着信中画面のサブメニュー操作

[伝言メモ録音] P.78

[着信転送]

[留守転送]

[着信拒否]

■ テレビ電話着信中画面のサブメニュー操作

- 次の機能については、音声電話着信中画面のサブメニュー操作（P.72）を参照してください。

- 着信拒否
- 着信転送
- 留守転送

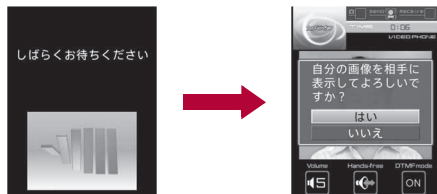
[テレビ電話伝言メモ] P.78

電話／テレビ電話を切り替える

相手（発信側）の操作で音声電話⇄テレビ電話を切り替えます。

- 自分（着信側）から切り替えることはできません（音声電話⇄テレビ電話切り替え対応機種でご利用いただけます）。
- 自分のFOMA端末のテレビ電話切替機能通知（P.82）を「開始」に設定しておく必要があります。

1 通話中に、相手がテレビ電話／音声電話に切り替える



音声電話からテレビ電話へ切り替えるとき

- 切り替えには、約5秒かかります。電波状況によっては、切り替えに時間がかかるときがあります。切り替え中は、[しばらくお待ちください]と表示され、音声ガイダンスが流れます。

音声電話からテレビ電話に切り替えたとき

- 音声ガイダンスが流れたあと、前記画面が表示されます。[はい]を選択すると、カメラ映像を送信します。[いいえ]を選択すると[テレビ電話代替]に[カメラオフ]という文字を重ねた映像を送信します。

テレビ電話から音声電話に切り替えたとき

- 音声ガイダンスが流れたあと、音声電話に切り替わります。そのまま音声電話を始めてください。

- マルチアシスタントから他の画面を表示したとき、保留中、パケット通信中、FOMA端末を閉じているときなどは、切り替えることができません。また、サブメニューから機能を実行しているときは切り替えることができない場合があります。

エニーキーアンサー

ダイヤルボタンを押して電話に出る

エニーキーアンサーを設定すると、通常時のボタン以外でも通話を開始することができます。

	通常時	エニーキーアンサー設定時
音声電話		～、、、、、、、、、、
テレビ電話	、	—

- 1 カスタムメニューで[設定] ▶ [通話・通信機能設定] ▶ [着信時設定] ▶ [エニーキーアンサー] ▶ [ON]

クローズ動作設定

FOMA端末を閉じて通話を終了／保留する

- 1 カスタムメニューで[設定] ▶ [通話・通信機能設定] ▶ [クローズ動作設定]

2 設定を選ぶ ▶

- [保留]に設定しているときは、保留音が流れます。保留音は変更できません。テレビ電話のとき、相手には保留画像設定で設定した画像が送信されます。
- [ミュート]に設定しているときは、保留音は流れません。テレビ電話のときは、代替画像設定で設定したキャラ電や静止画が送信されます。
- [保留]または[ミュート]に設定しているとき、再び通話するときは、FOMA端末を開きます。
- イヤホンマイク(別売)などを接続しているときは、クローズ動作設定にかかわらずFOMA端末を閉じて通話は継続されます。
- FOMA端末を閉じた状態でイヤホンマイクを抜くと、[ミュート]、[終話]に設定中はミュート状態になり、[保留]に設定中は保留状態になります。再びイヤホンマイクを接続するか、FOMA端末を開くと、通話できます。

- 通話中にビューアポジションにしたときの動作は、クローズ動作設定に従います。

受話音量調節

相手の声の音量を調節する

- [音量 1]～[音量 10]に調節できます。
- 通話中や待受中に調節した音量は、電源を切ったり、電池/パックを取り外しても保持されます。
- 待受中の受話音量調節についてはP.95

1 通話中に /

- 発信中、呼出中、保留中も操作できます。

2 で音量を調節

- 音量調節後、約 2 秒経過すると通話画面に戻ります。

応答保留

すぐに電話に出られないときに保留にする

- 応答保留中も、相手に通話料金がかかります。
- 留守番電話サービスや転送でんわサービスをご契約されているときは、留守番電話サービスセンターへの接続や転送先への転送ができます(P.72)。

1 着信中に

- 相手には、応答保留音が流れます。
- テレビ電話をかけてきた相手には、応答保留画像設定で設定した画像に[応答保留]という文字が重なって表示されます。
- 応答保留中に を押す、または相手が電話を切ると通話が終了します(着信履歴に記憶されます)。

2 電話に出られるようになったら

- 代替画像で応答(テレビ電話):

応答保留音／保留音

応答保留音／通話保留音を設定する

応答保留中に相手へ流れるガイダンスと、通話保留中に相手へ流れる保留音を設定します。

- 応答保留音は、あらかじめ次のガイダンスが登録されています。

[応答保留音 1]

ただいま電話に出ることができません。そのままお待ちになるか、しばらくたってからおかけ直してください。

[応答保留音 2]

I can't take your call now. Please hold the line for a moment or call me back later, thank you.

1 カスタムメニューで[設定] ▶ [音・パイプ・マナー] ▶ [保留・応答保留音]

2 項目を選ぶ ▶ ●

3 応答保留音／保留音を選ぶ

- 登録されている応答保留音を選ぶ: [応答保留音 1] / [応答保留音 2]
- 登録されている保留音を選ぶ: [保留メロディ 1] / [保留メロディ 2]
- 応答保留音／保留音の確認: 応答保留音／保留音を選ぶ ▶
- 音声メモを録音して設定: [オリジナル] ▶ [録音] ▶ 録音する ▶ [再生] ▶ メモを選ぶ ▶
- 録音停止: 録音中に
- 録音した音声メモを設定: [オリジナル] ▶ [再生] ▶ メモを選ぶ ▶

公共モードを利用する

- 留守番電話サービス※¹、転送でんわサービス※¹、番号通知お願いサービス※²は、公共モードに優先して動作します。
※¹ 呼出時間が0秒以外での音声電話に対しては、公共モードのガイダンスのあとにサービスが動作します。
※² 相手が電話番号を通知している場合は、公共モードが動作します。
- 迷惑電話ストップサービスで着信拒否した相手からの電話に対しては、公共モードは動作しません。

公共モード(ドライブモード)を利用する

<公共モード(ドライブモード)>

公共モードは、公共性の高い場所でのマナーを重視した自動応答サービスです。公共モードを設定すると、電話をかけてきた相手に運転中もしくは通話を控える必要のあるような場所(電車、バス、映画館など)にいるため、電話に出られない旨のガイダンスが流れ、通話を終了します。

- 公共モードの設定／解除は、待受中のみできます(画面にが表示されているときでも可能です)。
- 公共モード設定中でも、通常どおり電話をかけることができます。
- 本機能は、データ通信時はご利用できません。

1 待受画面で (1秒以上)

- 公共モードが設定され、が表示されます。
- マナーモードを同時に設定しているときは、公共モードの設定が優先されます。

公共モード(ドライブモード)を解除する

- 待受画面で (1秒以上)
- 公共モードが解除され、が消えます。

■ 公共モード(ドライブモード)を設定すると

お客様のFOMA端末に音声電話やテレビ電話がかかっても、着信音は鳴りません。ディスプレイにストックアイコン (着信あり)が表示され、着信履歴に記憶されます(※P.63)。

- 音声電話をかけてきた相手には、運転中もしくは携帯電話の利用を控えない場所にいる旨のガイダンスが流れ、通話を終了します。テレビ電話をかけてきた相手には、公共モードの映像ガイダンスが流れたあと、切断されます。ただし、電源が入っていないときや電波が届かないところにいるときは、運転中もしくは携帯電話の利用を控えない場所にいる旨のガイダンスは流れず、圏外時と同じガイダンスが流れます。
- i モードメール、SMSやメッセージR/Fは、着信バイブレータを設定しても振動しません。また、着信音も鳴りませんが自動的に受信し着信のマークが表示されます。エリアメールの専用警報音(ブザー音)・バイブレータ・着信ランプについては、マナー／公共モード時設定(※P.168)で設定できます。
- データ通信を着信したときも着信バイブレータ・着信音・着信ランプは動作しません。
- 地図・GPS機能の位置情報の提供を要求されたとき、サービスごとの利用設定で、位置提供を[許可]に設定している場合、位置提供の確認画面のあと、GPS測位画面が表示されてGPS測位後位置提供されますが、位置提供/許可音、位置提供/毎回確認音、バイブレータ、着信ランプは動作しません。また、サービスごとの利用設定で、位置提供を[毎回確認]に設定している場合、位置情報は提供されません。

- 公共モード設定中にアラーム時刻になっても、アラーム音は鳴らず、着信ランプやバイブレータも動作しません。また、サブディスプレイも点灯しません。
- 公共モード設定中に、緊急通報番号(110番、119番、118番)へダイヤルすると、発信後に公共モードの設定は解除されます。

公共モード(電源OFF)を利用する

<公共モード(電源OFF)>

公共モード(電源OFF)は、公共性の高い場所でのマナーを重視した自動応答サービスです。公共モード(電源OFF)を設定すると、電源をOFFにしている場合の着信時に、電話をかけてきた相手に電源を切る必要がある場所(病院、飛行機、電車の優先席付近など)にいるため、電話に出られない旨のガイダンスが流れ、通話を終了します。

1 待受画面で☒25251▶7

- 公共モード(電源OFF)が設定されます(待受画面上の変化はありません)。
- 公共モード(電源OFF)設定後、電源を切った際の着信時に、携帯電話の電源を切る必要がある場所にいる旨のガイダンスが流れます。

公共モード(電源OFF)を解除する

- 待受画面で☒25250▶7
- 公共モード(電源OFF)が解除されます。

公共モード(電源OFF)の設定を確認する

- 待受画面で☒25259▶7
- 現在の設定状況を確認できます。

■ 公共モード(電源OFF)を設定すると

公共モード(電源OFF)を解除するまで設定は継続されます。電源をONにするだけでは設定は解除されません。サービスエリア外または電波が届かないところにいるときも、公共モード(電源OFF)ガイダンスが流れます。電話をかけてきた相手には電源を切る必要がある場所にいる旨のガイダンスが流れ、通話を終了します。

不在着信

不在着信を確認する

かかってきた電話に出られなかったときは、ストックアイコン[■](着信あり)と着信件数が表示されます(不在着信表示)。

- 不在着信を確認するか、ストックアイコンを選んで☒を1秒以上押すと、ストックアイコンの表示が消えます。



1 待受画面で◎

- ◎(+☒)を押しても、着信履歴を確認できます。

2 ストックアイコン[目] (着信あり)を選ぶ▶◎

- 着信履歴一覧画面が表示されます。不在着信には[目]が表示されます。
- 着信履歴と同様の操作で、詳細を確認したりできます。

伝言メモ／テレビ電話伝言メモ

電話に出られないときに用件を録音／録画する

伝言メモを設定しておくと、電話に出られないときにFOMA端末が応答して伝言を預かることができます。音声電話がかかってきたときは、音声ガイダンスを流して相手の用件を録音します。テレビ電話がかかってきたときは、応答画像で応対して相手の画像と音声を録画します。

- 伝言メモはFOMA端末の電源が切れていたり、電波の届かない場所にいるときには利用できません。ネットワークサービスの留守番電話サービスをあわせてご利用になると便利です。
- 音声電話伝言メモは3件(1件あたり約15秒)まで録音できます。通話中音声メモや待受中音声メモを録音したときは、それらの件数も含めて3件です。
- テレビ電話伝言メモは2件(1件あたり約15秒)まで録画できます。
- 待受画面に表示される伝言メモのマークの件数は、音声電話伝言メモとテレビ電話伝言メモ、音声メモの合計です。
- マネーモード設定中は、伝言メモの設定／解除はできません。

伝言メモ／テレビ電話伝言メモを設定する

<伝言メモ設定>

1 カスタムメニューで[設定]▶[通話・通信機能設定]▶[伝言メモ設定]▶[伝言メモ設定]▶[ON]

- 伝言メモが設定され、ディスプレイに[目]が表示されます。
- 伝言があるときは、[目] (1件のとき) [目] (2件のとき) …のように件数を表すマークが表示されます。



- 音声電話伝言メモ3件とテレビ電話伝言メモ2件が録音／録画されると、[目]が表示され、それ以降、音声電話やテレビ電話がかかってきても伝言メモで応答しません。不要な用件を削除すると、伝言メモが再び有効になります。

伝言メモを解除する

- 伝言メモ設定を[OFF]にします。

- 留守番電話サービスを利用すると、1件あたり最長約3分間、それぞれ20件まで録音／録画できます。設定しているときは、音声電話伝言メモ3件、またはテレビ電話伝言メモ2件が録音／録画されていても留守番電話サービスセンターで用件を預かりします。

■ 応答メッセージが始まるまでの時間を設定する

<伝言応答時間>

1 カスタムメニューで[設定]▶[通話・通信機能設定]▶[伝言メモ設定]▶[伝言応答時間]

2 応答時間を入力▶◎

- 着信音を鳴らさずに、伝言メモが応答するようにするとき:「0秒」に設定

- オート着信設定と同じ時間には設定できません。
- 留守番電話サービスや転送でんわサービスを伝言メモと同時に設定しているときは、留守番電話サービスや転送でんわサービスの呼出時間の設定により、優先順位が異なります。伝言メモを優先させるためには、留守番電話サービスや転送でんわサービスの呼出時間よりも伝言メモの応答時間を短く設定してください。

■ 応答メッセージを設定する<応答メッセージ>

1 カスタムメニューで[設定]▶[通話・通信機能設定]▶[伝言メモ設定]▶[応答メッセージ]

2 メッセージの種類を選ぶ

- 登録されている応答メッセージを選ぶ:[応答メッセージ1]／[応答メッセージ2(英文)]
- 応答メッセージの確認: 応答メッセージを選ぶ▶[目]

- 音声メモを録音して設定: [オリジナル] ▶ [録音] ▶ 録音する ▶ [再生] ▶ メモを選ぶ ▶
- 録音停止: 録音中に
- 録音した音声メモを設定: [オリジナル] ▶ [再生] ▶ メモを選ぶ ▶

- 応答メッセージは、あらかじめ次のガイダンスが登録されています。
 - [応答メッセージ 1]
ただいま電話に出ることができません。ピーツという発信音のあとに、お名前とご用件をお話ください。
 - [応答メッセージ 2 (英文)]
I can't take your call now. Please leave your message, thank you.
- オリジナルの応答メッセージを削除 (P.78) すると、お買い上げ時の設定に戻ります。

■ テレビ電話伝言メモの応答画像を設定する ＜テレビ電話時応答画像＞

1 カスタムメニューで[設定] ▶ [通話・通信機能設定] ▶ [伝言メモ設定] ▶ [テレビ電話時応答画像]

2 静止画を選ぶ ▶

- 静止画の確認: 静止画を選ぶ ▶
- 送信できる画像については P.79

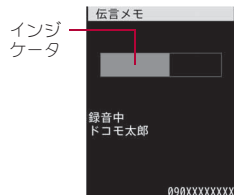
伝言メモ／テレビ電話伝言メモを設定したときは

1 電話がかかってくると、伝言応答時間のあとに伝言メモが応答する

- 応答中の画面が表示されます。音声電話のとき、相手には音声ガイダンスが流れます。テレビ電話のとき、相手には応答メッセージが流れ、テレビ電話時応答画像で設定した画像が送信されます。
- 伝言メモ応答中、録音／録画中に で電話に出ることができます。また、テレビ電話のときは、 を押すと代替画像で応答できます。

2 相手の用件を録音／録画する

- 録音／録画を開始するときに、相手に「ピー」と発信音が流れます。
- インジケータ、時間は目安です。
- 音声電話伝言メモのときは、録音中は相手の声が受話口から聞こえます。マナーモード設定時は、受話口から相手の声は聞こえません。



音声電話伝言メモ
録音中



テレビ電話伝言メモ
録画中

- 伝言メモが約3秒以下のとき、録音／録画されないことがあります。
- FOMA端末の故障・修理やその他取り扱いによって録音／録画内容が消失する場合があります。当社としては、責任を負いかねますので、万が一に備え、音声電話伝言メモ、テレビ電話伝言メモの内容は、メモなどに控えをお取りくださるようお願いいたします。
- テレビ電話伝言メモの応答中または録画中、相手にはテレビ電話時応答画像で設定した画像に[伝言メモ応答中]または[伝言メモ録画中]という文字が重なって表示されます。
- 伝言メモ録音／録画中は別の電話がかかってくることも受けられません。相手には話中音が流れます。
- 公共モード(ドライブモード)を設定しているときは、伝言メモは動作しません。

クイック伝言メモ

着信中の電話に出られないときに用件を録音／録画する

音声電話やテレビ電話がかかってきたときに、伝言メモを設定していないときも、その着信に限り用件を録音／録画できます。

1 着信中に [📞] ▶ [伝言メモ録音]／[テレビ電話伝言メモ]

- [7] (1秒以上)でも録音／録画できます。
- 伝言メモについてはP.76

伝言メモ・音声メモ再生／削除

伝言メモ・音声メモを再生／削除する

- 着信履歴表示を[OFF]に設定しているときは、メモリスト画面は表示されず、伝言メモ・音声メモは再生／削除できません。

伝言メモ・音声メモを再生する<再生>

1 カスタムメニューで[LifeKit] ▶ [音声／伝言メモ] ▶ [再生]



メモリスト画面

ストックアイコン[📞] (伝言メモ)が表示されているとき

- 待受画面で📞▶ストックアイコン[📞] (伝言メモ)を選ぶ▶🔊▶[再生]
- 未再生のメモには、[📞]が表示されます。

メモの種類

📞	伝言メモ
📞	通話中音声メモ
📞	待受中音声メモ

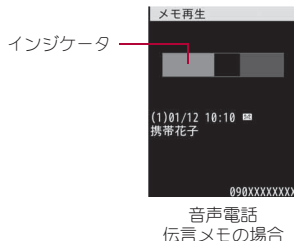
電話の種類

表示なし	音声電話
📞	テレビ電話

2 メモを選ぶ▶🔊

- 再生を途中で止める: [🔊]
- 音量調節: [🔊]で音量を調節
 - 音量調節後、約2秒経過するとメモ再生画面に戻ります。

- 伝言メモ・音声メモの再生中に着信やアラームが動作すると、再生は自動的に止まります。

音声電話
伝言メモの場合

伝言メモ・音声メモを削除する

1 メモリスト画面でメモを選ぶ▶ [📞] ▶ 削除方法を選ぶ▶
🔊▶ [はい]

キャラ電を利用する

- キャラ電についてはP.62

テレビ電話中にキャラ電を切り替える

<キャラ電切替>

テレビ電話中にキャラ電を送信しているとき、別のキャラ電に切り替えることができます。

1 代替画像でキャラ電を送信中に [📞] ▶ [キャラ電設定] ▶
[キャラ電切替] ▶ キャラ電を選ぶ▶ [📞]

全体アクションとパーツアクションを切り替える ＜アクション切替＞

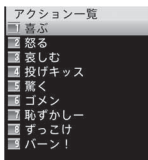
- 1 代替画像でキャラ電を送信中に [ⓐ] ▶ [キャラ電設定] ▶ [アクション切替]
 - ⓐ (1秒以上)でも操作できます。
 - 全体アクションモードとパーツアクションモードが交互に切り替わります。

キャラ電にアクションをさせる＜アクション一覧＞

- アクション一覧を表示せずに、アクションの番号(①～⑨)を押してアクションをさせることもできます。
- DTMF送信モードを[ON]に設定した場合は、ダイヤルボタンでプッシュホン信号が送出されるため、キャラ電のボタン操作ができません。
- パーツアクションの中には、別のアクションと組み合わせて実行できるものがあります。
- キャラ電によっては、アクションしないものや操作しなくてもアクションを行うものもあります。

- 1 代替画像でキャラ電を送信中に [ⓐ] ▶ [キャラ電設定] ▶ [アクション一覧]
 - ⓐまたはⓐ (1秒以上)でも操作できます。

- 2 アクションを選ぶ ▶ ⓐ
 - アクションの中止: ⓐ
 - 詳細の表示: アクションを選ぶ ▶ ⓐ



送信する映像について設定する

テレビ電話で送信できる画像は次のとおりです。

- データBOXのマイピクチャに保存されているJPEG画像またはGIF画像で、「QCIF: 176×144」サイズの静止画を利用できます。ただし、GIFアニメーションは利用できません。
- FOMA端末外への出力が禁止されている静止画は利用できません。ただし、FOMA端末で撮影した静止画はファイル制限に関係なく利用できます(静止画メモは利用できません)。

送信する画像を通話中に切り替える＜送信画像切替＞

テレビ電話中に、相手に送信する画像を変更できます。

- 送信画像切替で設定した画像は、テレビ電話を終了すると解除されます。

- 1 テレビ電話中に [ⓐ] ▶ [送信画像切替]
 - テレビ電話中に [ⓐ]を押すと代替画像と自画像を切り替えることができます。
- 2 送信する画像を選ぶ
 - ◆ [自画像] (カメラ映像に切り替える)
 - ◆ [代替画像] ▶ 静止画を選ぶ ▶ ⓐ
 - ◆ [キャラ電] ▶ キャラ電を選ぶ ▶ ⓐ
 - ◆ [ファイル再生] ▶ 静止画を選ぶ ▶ ⓐ

- microSDカード内の静止画は直接利用できません。あらかじめFOMA端末(本体)にコピーしてご利用ください。

自分側のカメラ映像を一時停止させて送信する ＜一時停止＞

- 1 カメラ映像を送信中に [ⓐ] ▶ [送信画像切替] ▶ [自画像設定] ▶ [一時停止]
 - 一時停止の解除: ⓐ / CLR

- カメラ映像が停止した状態の静止画を送信できます。

- 一時停止中、相手には自分側の映像に[停止中]という文字が重なって表示されます。
- テレビ電話を終了すると、設定は元に戻ります。

カメラ映像のズームアップ／ズームダウンを行う

1 カメラ映像を送信中に⑨／⑩

2 ⑩でズーム調整

- 最大ズーム／最小ズーム：⑩／⑨

- メインカメラは19段階、サブカメラは11段階のズームが設定できます。

メインカメラとサブカメラを切り替える

<カメラ切替>

1 カメラ映像を送信中に⑩ ▶ [カメラ切替]

- ⑩を押しても切り替えることができます。

- テレビ電話を終了すると、サブカメラに戻ります。
- DTMF送信モードを[OFF]に設定しているときは、⑩を押しても切り替えることができます。
- 電池残量が少ないときやメインカメラ周辺の温度が高いときはメインカメラを利用できません。メインカメラ使用中は、メインカメラが使用できなくなり、代替画像に切り替わります。サブカメラ使用中は、メインカメラに切り替えることができません。

明るさを調整する

1 カメラ映像を送信中に⑪ (1秒以上)

相手に送信する画像を発信時に変更する

<テレビ電話画像設定>

- テレビ電話画像設定は、その発信に限り有効です。

1 待受画面で電話番号を入力 ▶ ⑩

2 [テレビ電話画像設定]

3 送信する画像を選ぶ

- ◆[自画像](カメラ映像)
- ◆[キャラ電] ▶ キャラ電を選ぶ ▶ ⑩

代替画像や応答保留画像、通話保留画像を設定する

<代替画像設定／応答保留画像設定／保留画像設定>

1 カスタムメニューで[設定] ▶ [通話・通信機能設定] ▶ [テレビ電話設定] ▶ [送信画像設定]

2 項目を選ぶ ▶ ⑩

3 画像を選ぶ ▶ ⑩

- 代替画像として静止画を送信中、静止画に[カメラオフ]という文字が重なって表示されます。
- 代替画像は次の優先順位で送信されます。

優先順位(高→低)	
画像	電話帳の代替画像設定→テレビ電話設定の代替画像設定

送信画質を設定する<送信画質設定>

画質を優先して送信するか、動きを優先して送信するかを設定できます。

画質優先	撮影対象の形や色などを中心に伝えたいとき
標準	画質の美しさと動きのバランスをとるとき
動き優先	撮影対象の動きを中心に伝えたいとき

1 カスタムメニューで[設定] ▶ [通話・通信機能設定] ▶ [テレビ電話設定] ▶ [送信画質設定]

2 画質を選ぶ ▶ ●

- テレビ電話中の送信側と受信側の画質設定は異なります。

テレビ電話ハンズフリー設定

テレビ電話のハンズフリーについて設定する

テレビ電話開始時に自動的にハンズフリーに切り替えるかどうかを設定できます。

- 通話中にハンズフリーに切り替えるときはP.60

1 カスタムメニューで[設定] ▶ [通話・通信機能設定] ▶ [テレビ電話設定] ▶ [テレビ電話ハンズフリー設定]

2 設定を選ぶ ▶ ●

- 送話口から約20～40cmが最も通話しやすい距離です。なお、周囲の騒音が大きい場所では、音声が届かないなど良好な通話ができないことがあります。
- 屋外や騒音が大きい場所、音の反響が大きい場所でハンズフリー通話を行うときは、別売りのイヤホンマイクをご利用ください。
- ハンズフリー通話中、音が割れて聞きとりにくいときは、受話音量を下げてください。

テレビ電話中の映像を設定する

■ テレビ電話の画面を設定する

＜テレビ電話画面設定／子画面表示設定＞

- テレビ電話画面設定／子画面表示設定は、テレビ電話を終了しても保持されます。

テレビ電話画面設定



相手大／自分小



相手のみ



自分大／相手小



自分のみ

子画面表示設定



左上



右下

1 テレビ電話中に[設定] ▶ [テレビ電話設定] ▶ [テレビ電話画面設定]／[子画面表示設定]

- カスタムメニューでは:[設定] ▶ [通話・通信機能設定] ▶ [テレビ電話設定] ▶ [テレビ電話画面設定]／[子画面表示位置]

2 表示方法を選ぶ ▶ ●

■ テレビ電話中の照明を設定する＜テレビ電話中照明＞

1 テレビ電話中に[設定] ▶ [テレビ電話設定] ▶ [テレビ電話中照明]

2 設定を選ぶ ▶ ●

■ 自分側の映像を正像にする＜正像／鏡像切替＞

1 カメラ映像を送信中に [Ⓜ] ▶ [送信画像切替] ▶ [自画像設定] ▶ [正像／鏡像切替]

- 正像は見たとおりの向きに、鏡像は左右逆向きに表示されます。
- 設定にかかわらず相手側には常に正像が表示されます。

テレビ電話の設定を変更する

■ 音声電話で自動的にかけ直す＜音声自動再発信＞

テレビ電話をかけたときに接続できなかった場合、自動的に音声電話に切り替えて再発信します。

- テレビ電話通信が開始された場合、音声自動再発信は行いません。

1 カスタムメニューで[設定] ▶ [通話・通信機能設定] ▶ [テレビ電話設定] ▶ [音声自動再発信] ▶ [ON]

- 音声電話で再発信したときは、音声電話通話料になります。
- ISDNの同期64Kのアクセスポイント、3G-324M(4.75 P.60)に対応していないISDNのテレビ電話など(2009年10月現在)や間違い電話をかけたときなどは、音声自動再発信を行わないことがあります。また、通話料金が発生することもありますので、ご注意ください。

テレビ電話切替機能通知

電話とテレビ電話の切り替えについて設定する

相手に自分のFOMA端末が音声電話とテレビ電話の切り替えが可能かどうかを通知する設定です。

- テレビ電話切替機能通知を「停止」に設定すると、相手から切り替えることはできません。
- 音声電話中、テレビ電話中、および圏外時にテレビ電話切替機能通知を変更することはできません。

1 カスタムメニューで[設定] ▶ [通話・通信機能設定] ▶ [テレビ電話設定] ▶ [テレビ電話切替機能通知]

2 設定を選ぶ ▶ [はい]

- 設定の確認: [切替機能通知設定確認]

パケット通信中着信設定

i モード中にテレビ電話がかかってきたときの応答方法を設定する

- 設定できる応答方法は次のとおりです。

テレビ電話優先	かかってきたテレビ電話に出ることができます。
パケット通信優先	テレビ電話着信を拒否します。
留守番電話	自動的に留守番電話サービスに接続します。
転送でんわ	自動的に転送でんわサービスに接続します。

- ソフトウェア更新中、パターンデータ更新中、パケット通信を利用したデータ通信中にテレビ電話がかかってきたときは、着信拒否されます。

1 カスタムメニューで[設定] ▶ [通話・通信機能設定] ▶ [テレビ電話設定] ▶ [パケット通信中着信設定] ▶ 応答方法を選ぶ ▶ []

- [テレビ電話優先]に設定していても、テレビ電話に出ないとパケット通信は継続されます(テレビ電話に出ると、パケット通信は切断されます)。
- [留守番電話]や[転送でんわ]に設定するには、留守番電話サービスや転送でんわサービスのお申し込みが必要です。なお、未契約のときは、[留守番電話]や[転送でんわ]に設定しても[パケット通信優先]となります。